

伝統と進取

九鬼周造

青空文庫

ひたすらに伝統の匂いをかいで足れりとする者であるかのよう
な非難を私は近頃うけた。これは馬鹿げた非難だと一口でいつて
しまえばそれまでのことであるが、また考えようによつてはいい
機会でもあるから、果してこの非難が当たっているかどうかを、私
は出来るだけ客観的に自分について調べてみたいと思う。

この非難は二つの事項を含んでいる。ひたすら伝統の匂いをか
ぐというのが一つであり、それだけで足れりとするというのがも
う一つである。まず第二の点から考察していこう。私が伝統の固
守をもつて足れりとする者でないことは私自身にはあまりにも明
白なことである。私は西洋文化からも大いに学ぶべきところのあ

ることを堅く信じている者で、私の生活の一半は西洋文化の学習に捧げているようなものである。故国の文化はますます肥つていかなければならない。そのためには外国の新しいものの長を採つていかなければならない。このことはあまりに解りきつた平凡なことである。今日となつてはことさらに主張するのも可笑しいほどである。単に學術や技術の上のみならず芸術や道德の領域にあつても色々と西洋から学ぶべきところのあることを私は深く信じている。日本人がともすれば自惚うぬぼれがちで世界のどこに比してもすべての点で遜そんしよく色いろないもののように考えるのは甚だ間違つていると私は思う。我々は色々の点で新規なものを取入れて進んでゆかなければならない。私は伝統の固守をもつて足れりとする者では決して

ない。

次に第一に挙げた点、すなわち私がひたすら伝統の匂いをかぐということはどうであるか。この点は私は全面的に是認するものである。私が『「いき」の構造』を書いた頃はマルクス主義全盛の頃で、私は四面楚歌の感があった。数年経って「外来語所感」を発表したこのごろは、外圍の事情が全く反対になってしまつて、ある読者には私が現時流行の日本主義に阿諛苟合あゆこうごうするかのような感を与えたかも知れない。『「いき」の構造』から「外来語所感」に至るまで私にあつては同一の信念の同一の流れである。変化したのは外圍の事情である。

私はひたすら伝統の匂いをかぐ者である。しかし伝統への私の

愛着は「匂いをかぐ」というようなほのかなものでは決してない
ことも事実である。

青空文庫情報

底本：「九鬼周造随筆集」菅野昭正編、岩波文庫、岩波書店

1991（平成3）年9月17日第1刷発行

1992（平成4）年9月20日第3刷発行

底本の親本：「九鬼周造全集 第五卷」岩波書店

1991（平成3）年2月第2刷

入力：鈴木厚司

校正：松永正敏

2003年8月20日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.w.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

伝統と進取

九鬼周造

2020年 7月13日 初版

奥付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しむ青空ヘルパー <http://aohelp.club/>

※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。

<http://tokimi.sylphid.jp/>